PRIMERGY

B7FY-0941-01

取扱説明書

リモートサービスボード搭載キットⅠ

（PG-RSBOP9）

FUJITSU

はじめに

このたびは、弊社のリモートサービスボード搭載キットⅠをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本書は、リモートサービスボード搭載キットⅠ（以降、本製品）の取り扱いの基本的なことがらについて説明しています。ご使用になる前に本書およびサーバ本体に添付の取扱説明書をよくお読みになり、正しい取り扱いをされますようお願いいたします。

2003 年 8 月

安全にお使いいただくために

本書には、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。
本製品をお使いになる前に、本書を熟読してください。特に、本書の「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。
また本書は、本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

本製品のハイセイフティ用途での使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療器具、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではございません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

当社のドキュメントには「外国為替および外国貿易管理法」に基づく特定技術が含まれていることがあります。特定技術が含まれている場合は、当該ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。

本書の表記

■ 警告表示

本書ではいろいろな絵表示を使っています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解の上、お読みください。

⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使用しています。

⚠	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
🛇	🛇で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
❗	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「＋」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】＋【F3】キー、【Shift】＋【↑】キーなど

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
POINT	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■ 製品の呼び方

本文中の製品名称を次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記
Microsoft® Windows Server™ 2003, Standard Edition	Windows Server 2003
Microsoft® Windows Server™ 2003, Enterprise Edition	
Microsoft® Windows® 2000 Server	Windows 2000
Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server	
Microsoft® Windows® 2000 Datacenter Server	

なお、Linux ディストリビューションをご使用のお客様は、以下を参照してください。
富士通パソコン情報サイト FMWORLD.NET の PRIMERGY 向けホームページ (http://www.fmworld.net/biz/primergy/) 内の『ソフトウェア』から『Linux 関連情報』

安全上のご注意

本製品を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。

■ 万一、異常が発生したとき

⚠ 警告

プラグ



・万一、装置から発熱や煙、異臭や異音がするなどの異常が発生した場合は、ただちに装置本体の電源スイッチを切り、その後必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
煙が消えるのを確認して、担当営業員または担当保守員に修理をご依頼ください。お客様自身による修理は危険ですから絶対におやめください。異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。

■ AC アダプタの使用環境条件について

⚠ 注意

高 温



・リモートサービスボードに添付の AC アダプタは、サーバ本体の動作状態（動作時・休止時）にかかわらず、周囲温度が 0 ～ 35 ℃の環境を守ってご使用ください。特に夏場は、必要に応じて夜間・休日にも冷房を入れて、周囲温度が 35 ℃を超えないようにしてください。温度条件が守られないと、火災・故障の原因となります。

■本製品の取り扱いについて

⚠警告

感電

- 本製品をサーバ本体に取り付けたり取り外したりする際には、安全のためサーバ本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。AC アダプタの電源プラグもコンセントから抜いてください。電源を入れたまま本製品を取り付けたり取り外したりすると、装置の故障・発煙などが起こる可能性があり、また感電の原因となります。

禁止

- 本製品は精密に作られていますので、高温・低温・多湿・直射日光など極端な条件での使用・保管は避けてください。また、製品を曲げたり、傷つけたり、強いショックを与えたりしないでください。故障・火災・感電の原因となることがあります。
- AC アダプタを傷つけたり、加工したりしないでください。重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりすると電源ケーブルを傷め、火災・感電の原因となります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- AC アダプタが傷んだとき、コンセントの差し込み口がゆるいときは使用しないでください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- AC アダプタの電極、およびコンセントの差し込み口にほこりが付着している場合は、乾いた布でよく拭いてください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- 表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。また、タコ足配線をしないでください。火災・感電の原因となります。

プラグ

- 近くで雷が発生したときは、電源ケーブルやモジュラケーブルをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると、雷によっては装置を破壊し、火災の原因となります。

誤飲

- 取り外したカバー、キャップ、ネジ、電池などは、小さなお子様が誤って飲むことがないように、小さなお子様の手の届かないところに置いてください。万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

分解

- 本製品を勝手に改造しないでください。火災・感電の原因になります。

⚠注意

禁止

- 取扱説明書に記載されていない AC アダプタは使用しないでください。また、AC アダプタの改造・分解はしないでください。火災・けがの原因となります。
- 使用中の AC アダプタは、布でおおったり、包んだりしないでください。熱がこもり、火災の原因となります。
- 電源プラグを抜くときはケーブルを引っ張らず、必ずプラグを持って抜いてください。ケーブルを引っ張ると、ケーブルの芯線が露出したり切断されたりして、火災・感電の原因となることがあります。

指示

- 電源プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込んでください。火災・故障の原因となります。
- 本製品をご使用にならない場合は、静電気防止のため付属の梱包袋へ入れて保管してください。

■電池の取り扱いについて

⚠警告

誤飲

- 使用している電池を取り外した場合は、小さなお子様が電池を誤って飲むことがないように、小さなお子様の手の届かないところに置いてください。万一飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

⚠注意

禁止

- 取扱説明書に記載されていない電池は使用しないでください。電池の破壊、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚す原因となります。
- 電池はショートしたり、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れたりしないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚す原因となります。
- 乾電池は充電しないでください。電池の破裂や液漏れにより、火災・けがや周囲を汚す原因となります。

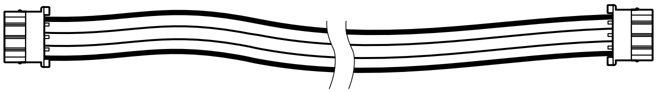
指示

- 電池を取り付ける場合、極性のプラス（＋）とマイナス（－）の向きに注意してください。間違えると電池の破裂や液漏れにより、火災・けがや周囲を汚す原因となります。

梱包物の確認

お使いになる前に、次のものが梱包されていることをお確かめください。
万一足りないものがございましたら、担当営業員または担当保守員までご連絡ください。

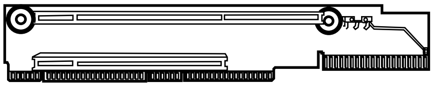
・サーバ制御ケーブル



・電源ケーブル



・ライザーカード



・取扱説明書（本書）

目次

1 本製品について

この章は、本製品の特長について解説しています。

本製品は、リモートサービスボードをサーバ本体に取り付け、ご使用になるためのキットです。本製品には、リモートサービスボードとサーバ本体を接続するケーブルが含まれています。

POINT

- リモートサービスボードは、別売品（PG-RSB101）です。
  リモートサービスボードについては、リモートサービスボードに添付の取扱説明書を参照してください。
  取り付け方法については、「2 本製品の取り付け」（→ P.10）を参照してください。

2　本製品の取り付け

この章は、リモートサービスボードおよび本製品のケーブルをサーバ本体に取り付ける方法を説明しています。

リモートサービスボードをご使用になるために、以下の流れ図に従って、リモートサービスボードの取り付け、ServerView のインストール、LAN ／モデムの接続を行ってください。

１．準備

　→　「2.1　作業をはじめる前に」

２．サーバ本体への取り付け

　→　「2.2.1　PCI カード／内部ケーブルの取り付け」
　→　「■サーバ本体への取り付け」

３．AC アダプタの接続

　→　「2.2.2　AC アダプタの接続」

４．システム資源の設定

　→　「2.2.3　システム資源の設定」

５．ファームウェアのアップデート

　→　「2.2.4　ファームウェアのアップデート」

６．ドライバのインストール

　→　「3　ドライバのインストール」

７．LAN／モデムの接続

LAN を使用する場合　→　「5.1　LAN ケーブルの接続」
モデムを使用する場合　→　「5.2　モデムの接続」

2.1　作業をはじめる前に

サーバへ取り付ける作業をはじめる前に、あらかじめ以下の準備を行ってください。

2.1.1　用意するもの

作業をはじめる前に、以下のものをご用意ください。

・リモートサービスボード
・サーバ本体に添付の PRIMERGY ドキュメント＆ツール CD
・ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク
　ServerStart CD-ROM から作成します。詳細は、PRIMERGY ドキュメント＆ツール CD 内の『ソフトウェアガイド』を参照してください。
・Remote Service Board Utility
　PRIMERGY ドキュメント＆ツール CD から作成します。以下に作成方法を示します。

1. フォーマット済みのフロッピーディスクを 2 枚用意します。
2. ドキュメント＆ツール CD 内の次のディレクトリにあるすべてのファイルを 1 のフロッピーディスクにコピーします。
   ［CD-ROM のドライブ］:¥Svmanage¥Tools¥RSBFlash¥fpd1
   ［CD-ROM のドライブ］:¥Svmanage¥Tools¥RSBFlash¥fpd2
3. 「スタート」メニューから、「コマンドプロンプト」画面を表示します。
   Windows 2000 ／ Windows 2003 の場合
   「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「コマンドプロンプト」の順にクリックします。
4. fpd2 からコピーしたフロッピーディスクに対して、コマンドプロンプト画面にて、次のコマンドを入力します。

   a:【Enter】

   abset【Enter】（ファイル属性が変更されます。）
5. フロッピーディスクを取り出し、書き込み禁止状態とします。

POINT

- Linux システムで Remote Service Board Utility を作成する方法は、PRIMERGY ドキュメント＆ツール CD 内の『ServerView ユーザーズガイド』を参照してください。

2.1.2　確認すること

作業をはじめる前に、以下をご確認ください。

・ServerView による電源オン／オフタイマが有効となっている

POINT

- 電源オン／オフタイマを無効にしてください。
  タイマ機能が有効な状態でリモートサービスボードを搭載した場合、以降のタイマ機能が正しく動作しません。タイマ機能を使用する場合には、リモートサービスボードを搭載したあと、タイマを再度設定してください。
  電源オン／オフタイマの設定ウィンドウは、下記手順で開くことができます。
  1. ServerView により対象サーバの情報を開きます。
  2. ［電源］ボタンをクリックします。

2.2 取り付け

リモートサービスボードおよび本製品のケーブルの取り付け手順について説明します。
取り付けをはじめる前に、本書の「2.1 作業をはじめる前に」（→ P.11）を参照し、必要な作業を行ってください。

2.2.1 PCI カード／内部ケーブルの取り付け

リモートサービスボードと本製品のケーブルの取り付け手順を説明します。

⚠ 警告

感電

- 本製品をサーバ本体に取り付けたり取り外したりする際には、サーバ本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。AC アダプタの電源プラグもコンセントから抜いてください。電源を入れたまま本製品を取り付けたり取り外したりすると、装置の故障・発煙などが起こる可能性があり、また感電の原因となります。

⚠ 注意

指示

- サーバ本体のカバーの取り外しや取り付けを行うときは、PRIMERGY ドキュメント & ツール CD 内の『ハードウェアガイド』に従って作業を進めてください。
- 本製品の PCI カードは静電気の影響を受けやすいので、導伝パッドなどの上に置くか、取り外した直後、または取り扱う直前まで梱包袋に入れておいてください。

■ サーバ本体への取り付け

サーバ本体にリモートサービスボードと本製品のケーブルを取り付ける手順を説明します。

⚠ 注意

指示

- サーバ本体のカバーの取り外し、取り付けを行うときは、PRIMERGY ドキュメント & ツール CD 内の『ハードウェアガイド』に従って作業を進めてください。

■取り付け手順

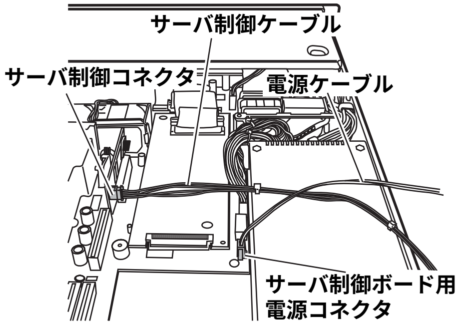
1. リモートサービスボードと本製品に添付されているライザカードおよびケーブル（サーバ制御ケーブル、電源ケーブル）を取り付けます。
PRIMERGY ドキュメント & ツール CD 内の『ハードウェアガイド』を参照してください。

POINT

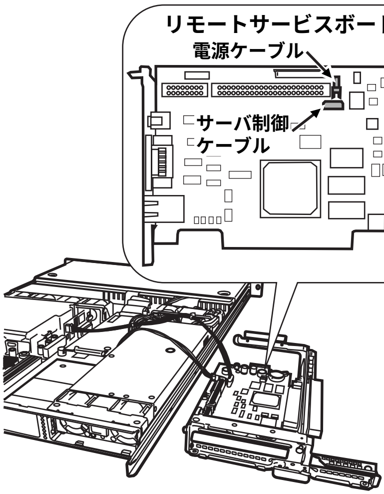
- リモートサービスボードを取り付けると、サーバ本体の電源を入れたあと画面が表示されるまでに 1 分程度かかることがあります。これは、サーバ本体の BIOS がリモートサービスボードと通信するために、リモートサービスボードが起動するのを待っている場合に発生します。故障ではありませんので、そのままお待ちください。
- リモートサービスボードを取り付けるには、固定フレームに搭載されているライザカードを本製品に添付のライザカードと付け替える必要があります。詳細は PRIMERGY ドキュメント & ツール CD 内の『ハードウェアガイド』を参照してください。

■ サーバ制御ケーブル、電源ケーブルの取り付け

1. 本製品に添付のサーバ制御ケーブルと電源ケーブルを、サーバ本体に接続します。



2. サーバ制御ケーブルと電源ケーブルのもう一方のコネクタを、リモートサービスボードに接続します。



⚠ 注意

・リモートサービスボードの取り付け位置、および、ベースボード側へのサーバ制御ケーブル、電源ケーブルの取り付け位置は、サーバにより異なります。

2.2.2　AC アダプタの接続

リモートサービスボードをサーバ本体に取り付け、サーバ本体のカバーを取り付け終えたら、リモートサービスボードの AC アダプタを接続します。

⚠ 警告

禁止

- AC アダプタを傷つけたり、加工したりしないでください。重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりすると電源ケーブルを傷め、火災・感電の原因となります。
- 濡れた手で AC アダプタを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- AC アダプタが傷んだとき、コンセントの差し込み口がゆるいときは使用しないでください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- AC アダプタの電極、およびコンセントの差し込み口にほこりが付着している場合は、乾いた布でよく拭いてください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- 表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。
  また、タコ足配線をしないでください。火災・感電の原因となります。

⚠ 注意

禁止

- 取扱説明書に記載されていない AC アダプタは使用しないでください。また、AC アダプタの改造・分解はしないでください。火災・けがの原因となります。
- 使用中の AC アダプタは、布でおおったり、包んだりしないでください。熱がこもり、火災の原因となります。

高温

- リモートサービスボードの AC アダプタは、サーバ本体の動作状態（動作時・休止時）にかかわらず、周囲温度が 0 ～ 35 ℃の環境を守ってご使用ください。特に夏場は、必要に応じて夜間・休日にも冷房を入れて、周囲温度が 35 ℃を超えないようにしてください。温度条件が守られないと、火災・故障の原因となります。

■ 取り付け手順

1　AC アダプタをリモートサービスボードに接続します。

1. リモートサービスボードに添付の AC アダプタの本体と電源ケーブルを接続します。
2. AC アダプタのプラグをリモートサービスボードの外部電源用コネクタに接続します。

2　AC アダプタの電源プラグをコンセントに接続します。

POINT

▶ リモートサービスボードは、AC アダプタまたはサーバ本体からの電源供給で動作しますが、サーバの電源異常監視を行うために AC アダプタが必要です。信頼性の向上のため、リモートサービスボードの AC アダプタの電源プラグは、サーバ本体の電源プラグを接続した電源とは異なる電源に接続することをお勧めします。

2.2.3 システム資源の設定

リモートサービスボードをサーバ本体に取り付けたあとで、システム資源の設定を確認します。
しかし、本製品に割り付けることができるシステム資源には制約がある場合があります。PRIMERGY ドキュメント & ツール CD 内の『ハードウェアガイド』を参照し、システム資源の割り付けについての制約を確認してください。
さらに、本製品をサーバに取り付けたあとで、本製品に割り付けられたシステム資源を確認し、必要に応じて変更してください。
本製品に割り付けるシステム資源の確認および変更の方法は、PRIMERGY ドキュメント & ツール CD 内の『ハードウェアガイド』を参照してください。

2.2.4 ファームウェアのアップデート

リモートサービスボードのファームウェアのアップデートの手順を説明します。本処理では、アップデートの他に初期設定も行いますので、必ず実施してください。

■アップデート手順

1 「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」をフロッピーディスクドライブにセットし、サーバ本体の電源を入れます。

2 表示されたメニューから、「Basic（RAIDUTIL）」を選択し、【Enter】キーを押します。

MS-DOS が起動します。

3 サーバ本体のフロッピーディスクドライブに、1 枚目の Remote Service Board Utility をセットします。

4 ファームウェアをアップデートします。

次のコマンドを入力します。

```
b:\flashrsb 【Enter】
```

アップデート処理中、表示されるメッセージに従ってフロッピーディスクを交換します。

5 アップデートの完了を確認します。

アップデートが正常に完了した場合には、次のメッセージが表示されます。

```
OK: Firmware flash successfully finished
```

アップデートが失敗した場合には、次のメッセージが表示されます。

```
ERROR: Firmware flash failed
```

6 アップデートが正常に完了した場合には、ファームウェアの版数を確認します。

アップデートした版数は、処理開始時のメッセージに表示されます。

```
MESSAGE: Flash firmware : Version x.x.x.xx
```

次のコマンドを入力します。版数の参照方法は、「A.3 版数の参照」（→ P.29）を参照してください。

```
b:\sptool 【Enter】
```

■アップデート再実行手順

ファームウェアのアップデートが失敗した場合は、再度ファームウェアのアップデートを実施してください。万一、サーバ本体が起動しなくなった場合には、以下の作業を行ってください。

1 サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをサーバ本体から取り外します。

2 リモートサービスボードの AC アダプタを取り外します。

3 10 秒以上たってから、リモートサービスボードの AC アダプタを接続します。

4 サーバ本体の電源ケーブルを接続し、サーバ本体および周辺装置の電源を入れます。

5 ファームウェアのアップデートを再度実施します。

上記作業を行っても正常に動作しない場合には、本製品を取り外し、担当保守員にご相談ください。

POINT

- ファイル属性の設定を行なわずに Remote Service Board Utility を作成した場合、ファームウェアのアップデート時に次のメッセージが表示されます。
  ファイル属性の設定を行なったあと、再度ファームウェアのアップデートを実施してください。

```
ERROR : File <core.bin> could not be opened!
ERROR : Firmware flash failed
```

3　ドライバのインストール

リモートサービスボードのドライバのインストールについて説明しています。
リモートサービスボードのドライバは下記のソフトウェアに含まれています。

■ ServerView V03.40 以降

POINT

- リモートサービスボードのデバイスドライバは、ServerView に含まれています。リモートサービスボードをご使用になる場合、必ずサーバ本体に ServerView をインストールしてください。

  Windows 2000 ／ Windows Server 2003 では、OS 起動時にハードウェアの検出ウィザード画面が表示される場合がありますので、次のように操作してください。
  ・「新しいハードウェアの検出ウィザードの開始」が表示された場合
  ［キャンセル］を選択します。
  ・「新しいハードウェアの検出ウィザードの完了」が表示された場合
  ［完了］を選択します。

  すでに上記の ServerView がインストールされている場合、または上記の ServerView をインストールしたあと、「ServerView のインストールについて」（→ P.35）に記載の処理を行ってください。

ServerView は、PRIMERGY ドキュメント & ツール CD に収録されています。

ServerView のインストール方法については、PRIMERGY ドキュメント & ツール CD 内の『ソフトウェアガイド』を参照してください。

ServerView の使用方法については、PRIMERGY ドキュメント & ツール CD 内の『ServerView ユーザーズガイド』を参照してください。

4　対応ソフトウェアについて

この章は、リモートサービスボードに対応するソフトウェア（ServerView、RemoteControlService）について説明しています。
リモートサービスボードに対応するソフトウェアは、以下のとおりです。

■ ServerView V03.40 以降

サーバの状態監視、遠隔操作が行えます。

POINT

- リモートサービスボードのデバイスドライバは、ServerView に含まれています。また、リモートサービスボードによるサーバの状態監視、および遠隔操作は、ServerView のエージェントとの連携により実現している処理があります。リモートサービスボードをご使用になる場合、必ずサーバ本体に ServerView をインストールしてください。

■ RemoteControlService V3.08 以降

サーバ本体の POST 時の画面表示、キーボード入力を管理端末から行えます。

POINT

- RemoteControlService は、BIOS セットアップユーティリティ等を遠隔操作で行いたい場合、管理端末にインストールしてください。

ServerView と RemoteControlService は、PRIMERGY ドキュメント & ツール CD に収録されています。

POINT

- V2.05 以前の RemoteControlService がすでにインストールされている場合、アンインストールしてから V3.08 以降の RemoteControlService をインストールしてください。

ServerView、RemoteControlService のインストール方法については、PRIMERGY ドキュメント & ツール CD 内の『ソフトウェアガイド』を参照してください。

ServerView、RemoteControlService の使用方法については、PRIMERGY ドキュメント & ツール CD 内の『ServerView ユーザーズガイド』を参照してください。

5 LAN ／モデムの接続

リモートサービスボードに LAN およびモデムを接続する方法を説明しています。

リモートサービスボードに LAN、モデムを接続することにより、管理端末からリモートサービスボードにアクセスしてサーバを制御したり、リモートサービスボードから異常通知（SNMP トラップ、E-mail、ポケットベル）を送信したりできるようになります。

注意

・リモートサービスボードには、下記のユーザアカウントが初期設定されています。運用を始める前に、必ずパスワードを変更してください。変更方法は、PRIMERGY ドキュメント & ツール CD 内の『ServerView ユーザーズガイド』を参照してください。
　ユーザ名：root　　パスワード：fsc

POINT

- LAN ケーブル、モデムおよびモデム用 RS-232C ケーブルはオプションです。本製品には含まれません。

5.1 LAN ケーブルの接続

リモートサービスボードに LAN ケーブルを接続する手順を説明します。

POINT

- リモートサービスボードには、以下の IP アドレスが初期設定されています。リモートサービスボードをネットワークに接続する前に、必要に応じて IP アドレスを変更してください。
  変更方法については、PRIMERGY ドキュメント & ツール CD 内の『ServerView ユーザーズガイド』を参照してください。

IP アドレス	：	192.168.0.10
サブネットマスク	：	255.255.255.0

■取り付け手順

1 LAN ケーブルをリモートサービスボードに接続します。

LAN ケーブルのコネクタを、リモートサービスボードの 10/100BASE-TX コネクタに接続します。

2 もう片方のコネクタを、ハブやルータなどに接続します。

5.2　モデムの接続

リモートサービスボードにモデムを接続する手順を説明します。

⚠ 警告

感電

・接続するときは、サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから取り外してください。
感電の原因となります。

■取り付け手順

1　RS-232C ケーブルをリモートサービスボードに接続します。
RS-232C ケーブルのコネクタ（9 ピン）を、リモートサービスボードのシリアルポートコネクタに接続します。

2　RS-232C ケーブルをモデムに接続します。
モデムの取扱説明書を参照し、もう片方のコネクタをモデムに接続します。

3　電話回線ケーブルをモデムに接続します。
モデムの取扱説明書を参照し、電話回線モジュラコンセントに接続された電話回線ケーブルの、もう片方のコネクタをモデムの LINE 端子に接続します。

4　モデムの電源を接続します。
モデムの取扱説明書を参照し、モデムの電源（モデムに添付の AC アダプタ）をモデムに接続します。

POINT

- 無停電電源装置をご使用の場合は、停電時の通信を可能にするために、モデムの電源プラグを無停電電源装置に接続することをお勧めします。

6　本製品の取り外し

この章は、リモートサービスボードの取り外し手順について説明しています。

⚠ 警告

感電

・リモートサービスボードを取り外すときは、サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをサーバ本体から取り外してください。リモートサービスボードの AC アダプタも取り外してください。
感電の原因となります。

⚠ 注意

指示

・サーバ本体のカバーの取り外し、取り付けを行うときは、PRIMERGY ドキュメント & ツール CD 内の『ハードウェアガイド』に従って作業を進めてください。
・リモートサービスボードは静電気の影響を受けやすいので、導伝パッドなどの上に置くか、取り外した直後、または取り扱う直前まで梱包袋に入れておいてください。

■取り外し手順

PRIMERGY ドキュメント & ツール CD 内の『ハードウェアガイド』を参照してください。

POINT

- リモートサービスボードを取り外しても、ServerView（デバイスドライバ含む）、RemoteControlService をアンインストールする必要はありません。

付録 A SERVICE PROCESSOR TOOL

Remote Service Board Utility に含まれる SERVICE PROCESSOR TOOL を使用して、リモートサービスボードに格納されるログの参照／保存／消去、および版数の参照を行う方法について説明します。

A.1 SERVICE PROCESSOR TOOL の起動と終了

■ SERVICE PROCESSOR TOOL の起動手順

1 「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」をフロッピーディスクドライブにセットし、サーバ本体の電源を入れます。

2 表示されるメニューから、「Basic（BIOS Environment Support Tools）」を選択し、【Enter】キーを押します。

MS-DOS が起動します。

3 フロッピーディスクドライブに、Remote Service Board Utility をセットします。

4　次のコマンドを入力します。

SERVICE PROCESSOR TOOL が起動します。

```
b:\sptool 【Enter】
```

```
FUJITSU
 SIEMENS              SERVICE PROCESSOR TOOL - Vx.xx
  COMPUTERS                  [Copernicus A / RSB]

     System Information (ID-PROM)
     General Information
     Error and Message Log
     Fan Information
     Temperature Information
     Powersupply Information
     Power / Reset Control
     Voltage Information
     CPU Information
     Memory Module Information
     PCI Bus Information
     Alarm Settings (Pager / SMS / E-Mail)
     VT100 Settings
     Remote Manager Settings
     Network / Serial Interface / Users / SNMP Settings
     Server Management Control Settings
     Storage Extension (SE / CAN-Bus) Settings

     <↑ ↓> Select       <Enter> Start       <ESC> Exit
```

5　【↑】または【↓】キーで各項目を選択して【Enter】キーを押します。

各項目の画面が表示されます。

注意

- SERVICE PROCESSOR TOOL では、以下の項目だけ使用できます。
  - Error and Message Log
  - General Information

  その他の項目は、動作を保証しません。使用しないでください。

SERVICE PROCESSOR TOOL のメニュー画面でのキー操作を以下に示します。

キー	キーの役割
【↑】、【↓】	メニュー項目を選択します。
【Enter】	選択した項目を実行します。
【Esc】	SERVICE PROCESSOR TOOL のメニュー画面を終了し、起動画面に戻ります。

■ SERVICE PROCESSOR TOOL の終了手順

1 SERVICE PROCESSOR TOOL のメニュー画面で【Esc】キーを 1 回押します。

DOS プロンプトが表示され、フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えたら、電源を切れる状態になります。

A.2 エラーログやメッセージログの参照／保存／消去

エラーログやメッセージログの参照／保存／消去は、ERROR AND MESSAGE LOG 画面で行います。

■ ERROR AND MESSAGE LOG 画面の起動手順

1 SERVICE PROCESSOR TOOL を起動します。

2 「Error and Message Log」を選択し、【Enter】キーを押します。

ERROR AND MESSAGE LOG 画面が表示されます。

```
FUJITSU
 SIEMENS                    ERROR AND MESSAGE LOG
  COMPUTERS

        Found 3 Errors and 7 Messages

      <F1> View ErrorLogSelect    <F2> View MessageLog    <F3> Write to file
      <F4> Clear Logs                                     <ESC> Exit
```

ERROR AND MESSAGE LOG 画面でのキー操作を以下に示します。

キー	キーの役割
【F1】	エラーログを表示します。
【F2】	メッセージログを表示します。
【F3】	ログを保存します。
【F4】	ログを消去します。
【Esc】	ERROR AND MESSAGE LOG 画面を終了し、SERVICE PROCESSOR TOOL のメニュー画面に戻ります。

■エラーログの表示

エラーログとは、システム内で発生した異常を格納するログです。
エラーログは、ERROR AND MESSAGE LOG 画面で【F1】キーを押すと、表示されます。

```
FUJITSU
 SIEMENS                              ERROR LOG
  COMPUTERS

003 [1501] M DD.MM.YYYY HH.MM.SS XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
002 [2300] M DD.MM.YYYY HH.MM.SS XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
001 [1501] M DD.MM.YYYY HH.MM.SS XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

<                                                     >

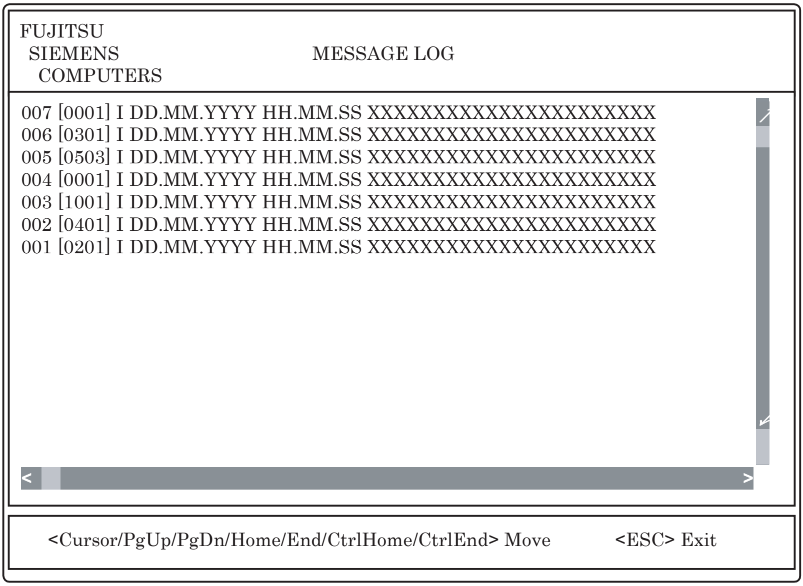
   <Cursor/PgUp/PgDn/Home/End/CtrlHome/CtrlEnd> Move     <ESC> Exit
```

ERROR LOG 画面でのキー操作を以下に示します。

キー	キーの役割
【↑】、【↓】、【←】、【→】、【PageUp】、【PageDown】、【Home】、【End】、【Home】+【Ctrl】、【End】+【Ctrl】	画面をスクロールします。
【Esc】	ERROR LOG 画面を終了し、ERROR AND MESSAGE LOG 画面に戻ります。

■ メッセージログの表示

メッセージログとは、システム内で発生したイベントを格納するログです。
メッセージログは、ERROR AND MESSAGE LOG 画面で【F2】キーを押すと、表示されます。



MESSAGE LOG 画面でのキー操作を以下に示します。

キー	キーの役割
【↑】、【↓】、【←】、【→】、【PageUp】、【PageDown】、【Home】、【End】、【Home】＋【Ctrl】、【End】＋【Ctrl】	画面をスクロールします。
【Esc】	ERROR LOG 画面を終了し、ERROR AND MESSAGE LOG 画面に戻ります。

■ログの保存

1 ERROR AND MESSAGE LOG 画面で【F3】キーを押します。

2 サーバ本体のフロッピーディスクドライブにセットした Remote Service Board Utility を、いったん取り出します。

3 フォーマット済みのフロッピーディスクを用意して、サーバ本体にセットします。

4 ログを保存するファイルのファイル名を入力します。

以下のように入力し、【Enter】キーを押します。

```
b:\xxxxxxxx.xxx
```

xxxxxxxx.xxx には任意のファイル名を指定できます。

5 フロッピーディスクに、手順 3 で指定したファイル名でログが保存され、次の画面が表示されます。

FUJITSU
SIEMENS
COMPUTERS

Log File has been written correctly.

Press any key

6 何かのキーを押します。

ERROR AND MESSAGE LOG 画面に戻ります。

7 SERVICE PROCESSOR TOOL を終了する場合は、【Esc】キーを 2 回押して SERVICE PROCESSOR TOOL を終了します。

SERVICE PROCESSOR TOOL を続けて使用する場合は、フロッピーディスクをサーバ本体から取り出し、Remote Service Board Utility をセットします。

■ログの消去

エラーログやメッセージログがいっぱいになると、古いログから順番に新しいログで上書きされるため、定期的にエラーメッセージやメッセージログを確認し、必要に応じてログを保存／消去してください。
ログは、ERROR AND MESSAGE LOG 画面で【F4】キーを押すと、消去できます。

A.3 版数の参照

版数の参照は、GENERAL INFORMATION 画面で行います。

■ GENERAL INFORMATION 画面の起動／表示

1 SERVICE PROCESSOR TOOL を起動します。

2 「General Information」を選択し、【Enter】キーを押します。

GENERAL INFORMATION 画面が表示されます。

```
FUJITSU
 SIEMENS                    GENERAL INFORMATION
  COMPUTERS

Local Cabinet Number (hex) : 0000

Service Processor Firmware Version:       0.2.1.73
Service Processor Model / Product Name:  RSBA_Primergy
Service Processor Product Version:        eRMC Rev. C
Service Processor Manufacturer:           FSC

                        Press any key
```

GENERAL INFORMATION 画面での表示内容を以下に示します。

表示	内容
Local Cabinet Number（hex）	キャビネット番号を示します。
Service Processor Firmware Version	ファームウェアの版数を示します。
Service Processor Model/Product Name	製品名を示します。
Service Processor Product Version	ハードウェアの版数を示します。
Service Processor Manufacturer	製造メーカーを示します。

付録 B　Configuration Tools

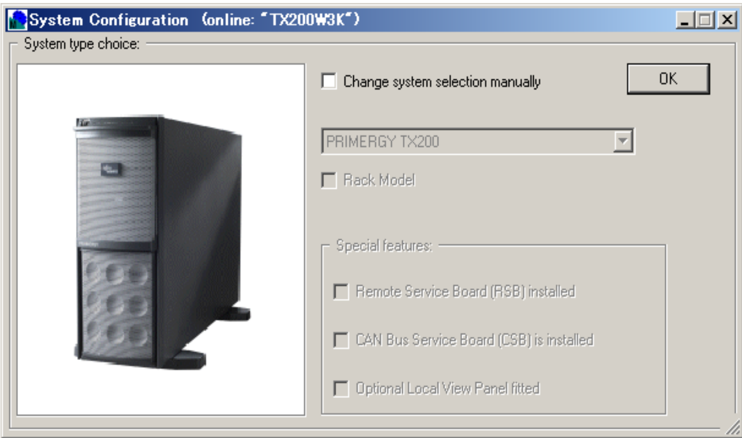
Fujitsu ServerView Agents に含まれる Configuration Tools を使用し、リモートサービスボード（リモートサービスコントローラ含む）の設定方法（変更／退避／復元）について説明します。
この機能は、Windows 2000 ／ Windows Server 2003 上で実行できます。

B.1　Configuration Tools の起動

設定を変更する場合、以下の手順で操作します。

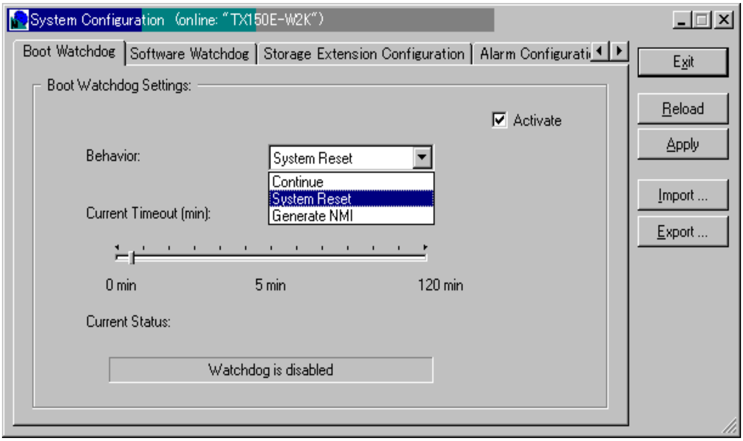
1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu ServerView Agents」→「Configuration Tools」→「System Configuration」の順にクリックします。

「System Configuration」画面が表示されます。



2 「Change system selection manually」と「Remote Service Board(RSB) installed」をチェックし、［OK］をクリックします。

項目を設定する画面が表示されます。



以下の設定項目（タブ画面）があります。

タブ画面	内容
Boot Watchdog	Boot Watchdog 関連の設定です。
Software Watchdog	Software Watchdog 関連の設定です。
Storage Extension Configuration	拡張外部装置関連の設定です。変更の必要はありません。
Alarm Configuration (Management Controller/RSB)	アラーム通知関連の設定です。リモートサービスボード／コントローラのみ有効です。
IP Configuration (Management Controller/RSB)	IP 関連の設定です。リモートサービスボード／コントローラのみ有効です。
Network Service Configuration (Management Controller/RSB)	HTTP/Telnet 関連の設定です。リモートサービスボード／コントローラのみ有効です。
Remote User Configuration (Management Controller/RSB)	ユーザアカウント関連の設定です。リモートサービスボード／コントローラのみ有効です。
SNMP Configuration (Management Controller/RSB)	SNMP 関連の設定です。リモートサービスボード／コントローラのみ有効です。
Serial Interface Configuration (Management Controller/RSB)	シリアル関連の設定です。リモートサービスボード／コントローラのみ有効です。
Disk Redirection	ディスクリダイレクション関連の設定です。リモートサービスボード／コントローラのみ有効です（本機能は未サポートです）。
System Power On/Off Settings	電源スケジュールの設定です。リモートサービスボード／コントローラのみ有効です。
UPS Configuration	UPS 関連の設定です。

3　必要な設定後、［Exit］をクリックします。

設定値を変更して［Apply］をクリックしていない場合や、［Import］による設定値の読み込みを行った場合は、設定内容を保存するかどうかの確認メッセージが表示されます。



4　保存する場合は［はい］を、保存しない場合は［いいえ］をクリックします。

Configuration Tools が終了します。

B.2　設定を変更する

1　Configuration Tools を起動します。

2　設定する項目のタブをクリックし、項目を設定します。

設定をやり直したいときは、［Reload］をクリックすると、すべての項目が元の設定値に戻ります。

3　［Apply］をクリックします。

設定が反映されます。

4　［Exit］をクリックします。

Configuration Tools が終了します。

B.3　設定を退避する

設定内容を、ファイルとして保存します。

1　Configuration Tools を起動します。

2　［Export］をクリックします。

「ファイル名を付けて保存」画面が表示されます。

3　ファイル名とファイルの保存先を設定し、［保存］をクリックします。

ファイルが保存されます。

4　［Exit］をクリックします。

Configuration Tools が終了します。

B.4　設定内容の復元

設定内容を保存したファイルを読み込んで、各項目を設定します。

1　設定内容を保存したファイルを読み込んで、各項目を設定します。

2　［Import］をクリックします。
「ファイルを開く」画面が表示されます。

3　読み込む設定ファイルを選択し、［開く］をクリックします。
読み込んだ設定ファイルの設定値で項目が設定されます。

4　［Exit］をクリックします。
Configuration Tools が終了します。

付録 C 留意事項

リモートサービスボードをご使用になる上での留意事項について説明します。

C.1 電圧・温度センサ番号について

リモートサービスボードの電圧・温度センサ番号は、0 から割り振ります。
このため、関連ソフトウェア（ServerView、RemoteControlService、Web Interface）で表示するサーバ本体の電圧・温度センサ番号、および、エラーメッセージ内の電圧・温度センサ番号は、リモートサービスボードの分をシフトしています。

電圧番号　：　4

温度センサ番号　：　1 または 3

以下は、リモートサービスボード搭載の有無による表示例です。

■ 本ボード未搭載時

【電圧】		【温度センサ】	
番号	名称	番号	用途
0	CPU0	0	housing
1	CPU1	1	CPU
:	:	:	:

■ 本ボード搭載時

【電圧】		【温度センサ】	
番号	名称	番号	用途
0	RSB ExtPower	0	housing（本ボード上の温度）
1	RSB PCI Power	1	housing
2	RSB AUX Power	2	CPU
3	RSB Main Power	:	:
4	CPU0	:	:
5	CPU1	:	:
:	:	:	:

または、

【電圧】		【温度センサ】	
番号	名称	番号	用途
0	RSB ExtPower	0	RSB Inhouse（本ボード上の温度）
1	RSB PCI Power	1	Battery
2	RSB AUX Power	2	Battery Board
3	RSB Main Power	3	housing
4	CPU0	4	CPU
5	CPU1	:	:
:	:	:	:

C.2　初期設定について

リモートサービスボードを搭載した場合、設定は次のようになります。

・ServerView の設定によるソフトウェアウォッチドック：無効

・ServerView の設定による電源オン／オフタイマ：無効

C.3　ServerView のインストールについて

ServerView をインストールした直後、または、リモートサービスボードを搭載した直後の OS 起動時には、リモートサービスボードが ServerView に認識されない場合があります。以下の手順に従い、確認・再認識・再インストールの処理を行ってください。

POINT

- OS が Linux の場合には、本処理を行う必要はありません。

■ リモートサービスボードの確認

以下の手順により、リモートサービスボードが ServerView に認識されていることを確認します。

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu ServerView」→「Fujitsu ServerView」の順にクリックし、ServerView を開きます。

2 「サーバの一覧ウインドウ」から対象装置のサーバを選択し、ダブルクリックします。

3 「ServerView ウインドウ」の各ボタンが有効であることを確認します。

ServerView の初期処理に数分かかることがあります。［更新］ボタンをクリックして、各ボタンが有効になるまで待ちます。

4 ［アクション］ボタンをクリックします。

5 「アクションウインドウ」の［RSB］ボタンが無効である場合、リモートサービスボードの再認識処理を行います。

「■ リモートサービスボードの再認識処理」（→ P.35）

■ リモートサービスボードの再認識処理

以下の手順により、リモートサービスボードの再認識処理を行います。

1 OS を再起動します。

2 リモートサービスボードの認識を行います。

なお、この再認識処理を行ったあと、リモートサービスボードが認識されていない場合には、「ドライバの再インストール」（→ P.36）を行います。

■ ドライバの再インストール

以下の手順により、ドライバを再インストールします。

1. **管理者、または管理者と同等の権限を持つユーザとしてログインします。**

2. **実行中のアプリケーションをすべて終了させます。**

3. **PRIMERGY ドキュメント & ツール CD から、以下を起動します。**
   CD-ROM のドライブ：¥Svmanage¥Japanese¥Unagent.exe
   この処理によりエージェントがアンインストールされます。

4. **システムを再起動します。**

5. **PRIMERGY ドキュメント & ツール CD から、以下を起動します。**
   CD-ROM のドライブ：¥Svmanage¥Tools¥Addagent.exe

6. **リモートサービスボードの確認を行います。**
   「■ リモートサービスボードの確認」（→ P.35）
   なお、この再インストール処理を行ったあと、リモートサービスボードが認識されていない場合には、担当保守員にご相談ください。

Memo

Memo

PRIMERGY

リモートサービスボード搭載キットI
（PG-RSBOP9）

取扱説明書

B7FY-0941-01-00

発 行 日　2003 年 8 月
発行責任　富士通株式会社

Printed in Japan

Ⓟ 0308-1

FUJITSU

このマニュアルは再生紙を使用しています。

B7FY09410１